

「諸福に残る河内相撲の痕跡」

意外かもしれませんが、河内は古くから相撲が盛んな地でした。各地の墓地では地元出身の力士たちの墓を見ることが出来ます。古堤街道沿いの諸福墓地にも、当地で活躍した早碓部屋の力士の墓があります。



力士・早碓幸八の墓(諸福墓地)

江戸時代以来、河内の村々では素人仲間の相撲部屋が作られ、明治の中ごろには東組・西組・東中組・北中組・中組の5つの相撲組に属するようになりました。大東市域には、諸福・太子田・八箇新田を本拠とする早碓部屋と、水野・赤井・三箇・野崎・平野屋・寺川・中垣内を本拠とする日の出山部屋があり、いずれも東中組に属していました。

それぞれの相撲部屋では、頭取(親方)のもとで弟子たちが日ごろから稽古に励み、秋祭りの際に行われる夜相撲などで勝負を競い合いました。

往時の相撲興行のにぎわいぶりは、江戸時代後期に作られた「河内名所図会」でも紹介されています。また、力士たちはその腕力を生かし、

角ノ堂浜すみどうばでの船積みなど相撲以外の場面でも活躍していたそうです。



諸福天満宮の力石



「河内名所図会」の枚岡神社(現東大阪市)での相撲興行

河内での相撲興行は昭和50年代ごろには行われなくなりましたが、現在も各地の神社や個人宅に化粧回しや板番付、興行の際に奉納された絵馬などゆかりの品が伝わっています。以前小欄で紹介した諸福天満宮の境内にも、力士の稽古に用いられた力石が残されています。

諸福墓地のすぐ東側には、寝屋川に架かる大東大橋があります(諸福中垣内線として平成16年に建設)。橋の高架下を通り抜けると、太子田地区に入ります。次回からは太子田の旧跡を紹介していきます。

(生涯学習課)